

大倉工業は包装用プラスチックフィルムなどの合成樹脂事業や建材事業を中核に、電子機器向け光学フィルムや自動車、医療などの分野に向けた新規材料の開発を手がける。

持続可能な社会の実現を目指し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を2030年度に13年度比50%削減するという脱炭素目標を掲げる。実現に向けて、各工場などに太陽光発電設備や設備更新時の省エネルギー機器の導入などを積極的に進めている。

## 大倉工業

脂のラミネート製品などを手がける丸亀第五工場(香川県丸亀市)は24年12月期までに13年度比30

## モノづくり現場

### 生産革新・脱炭素社会への挑戦

# ヒートポンプでチラー代替



丸亀第五工場に導入した熱回収ヒートポンプ

# 同時に冷温水、電気使用減

%以上のCO<sub>2</sub>削減をほぼ達成できる見通しだ。明の発光ダイオード(LED)化などを進めてきた、ヒートポンプで回収した廃熱で作った温水を

乾燥用の空気の予熱に活用する事で、蒸気の消費量も削減した。

元々、空調用チラー4台で冷水を発生、循環させて工場内の冷房に使用していたが、そのうちの1台を四国電力の協力の

下、熱回収ヒートポンプに置き換えた。冷却能力はそのままで高効率に冷水を作るようになり、チラーの電気使用量の削減にもつながった。ま

を予熱することで、年間約342トンのCO<sub>2</sub>排出量の削減を見込む。今後は稼働率をさらに高め、排出量の一層の削減を目指す。

同工場の木村浩司工場長は「補助金を活用して設備の導入・更新が得意、目標達成に向けて大きく前進した」と強調。

導入した熱回収ヒートポンプは冷水と温水のバランスが取れ、空調用冷水の予冷と製造工程で使用する熱風の予熱を同時に行える機器を選定し「熱回収ヒートポンプ導入の成果は会社全体で共有し、他工場に横展開したい」との考えだ。

た。ヒートポンプから供給する温水で乾燥用空気を(水・金曜日に掲載)

【事業所概要】▽所在地II香川県丸亀市蓬萊町23、0877・25・5800▽主要生産品目IIプラスチック製品▽年間CO<sub>2</sub>排出量II非公表